

令和2年度

研修集録



秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校

目次

◇校内研修

●職員校内研修会Ⅰ「授業で取り入れやすいICTの基本講座」…………… 2

●職員校内研修会Ⅱ「就労支援について～高等学校との関わり」…………… 3

●ループリック評価を取り入れた授業実践 …………… 1 1

◇校外研修

●教職5年目研修講座（高等学校）を受講して

教諭 小林万寿美 …………… 1 5

◇湯沢翔北高校相互授業研修

●地歴・公民科

講師 土田裕未 …………… 2 1

●理科

講師 大隅哲也 …………… 2 5

職員校内研修会 I

臨時講師 土田 裕未

期 日	令和2年 7月 28日 (火)
日 程	13:00 ~ 14:30
場 所	本校第1PC室
テ ー マ	授業で取り入れやすいICTの基本講座
講 師	情報科 佐藤亜樹子
1 研修について 職員のICT活用について具体的な方法を研修し、今後の学習指導に役立てる。実機（PC）を用いた操作研修。 2 感 想 研修を通して、パワーポイントの基本的な操作方法や、レイアウト等を実践を交えて講義して頂いた。文字の大きさやフォントやスライドのデザインを工夫することで格段に見やすくなり、受け手にとってわかりやすいことに留意したまとめ方を学ぶことができた。パワーポイントの作成に難儀している生徒が多く見受けられるが、機会があれば今回の研修で得た技能を生徒達に教示していきたい。令和3年度から生徒に一人1台タブレットが導入されることになった。また、各クラスには電子黒板と書画カメラも導入されることになった。これに伴ってWi-Fi環境も整い、教育活動の可能性が広がると思われる。現在雄勝校では主に黒板を用いて授業を展開している教員が多いが、情報をまとめる技能の育成や、ICT機器の活用を図る学習活動をより一層充実させるために、教職員のICT慣れの必要性を感じた。	

職員校内研修会Ⅱ

教諭 小林 万寿美

期 日	令和3年 2月 18日 (木)
日 程	15:50 ~ 16:50
場 所	本校第1PC室
テ ー マ	就労支援について～高等学校との関わり～
講 師	社会福祉法人 慈泉会 秋田県南障害者就業・生活支援センター センター長 本間啓之 先生
1 研修について (1) 就業・生活支援センターとは (2) 事例 (3) 就労支援とは 2 感 想 就業・生活支援センターは秋田県内では8カ所あり、雄勝はパートナー、横手はネット横手である。センターでは障害者の就業および就労の相談および支援を行っており、事業者と雇用者の間に入ってサポートをしていると伺った。なかでも就職してから働き続ける定着支援に力を入れているということだった。 センターを利用する人には、(就職させてもらえる)と思っている人がおり、就職とは本人がするものであるという認識を持って欲しいとおっしゃっていた。また学校はセンターにお任せではなく、学校が主体となって動く必要があることを教えて頂いた。 具体的な就業・就労支援として、どんな仕事があるか、職場実習、マッチング、面接に同行などに加え、施設で訓練を受けたい人のために施設を探す、施設の見学など細やかに対応して下さっていることが分かった。最近では、運転免許の取得についての相談があり、手帳を持っていることを伝えずに取得が難しくなっている人が多くなっているようである。手帳を持っていることを伝えることで教え方を変えてくれる教習所もあると伺った。 事例の説明の前に、「就職とは卒業後、自分の同僚(後輩)になることです。一緒に働けますか?」と全員に問いかけられた。「一緒に働けない理由を探るのが支援の始まりです。」との言葉に、自分のクラスの生徒に思いを巡らせ、今後センターとの連携の必	

要性を感じた。

事例では、Aさんが在学中から実習（インターンシップ）を経て、就職、離職するまでの流れをお話いただいた。インターンシップを通してAさんはB社に興味を持ち、Aさんと学校ともに、卒業後はB社へ就職することが目的・目標となった。そのため、AさんはB社に就職後、働く目的を見失い、平気で仕事を休むようになり、離職に至ってしまったということだった。

お話を伺って、ゴールを「就職」にしてしまうと、就職した時点で目標がなくなってしまうので、その後も働き続けるために就職後までを考えて指導することの大切さを学ぶことができた。何かを達成するための就職であることを生徒に考えさせていく必要性を感じた。また、学校時代からできないことは就職してからもできないと伺い、高校を卒業後就職する生徒が多い本校では、一層、基本的生活習慣を身につけさせる責務を感じた。さらに、就労支援について、対象者自身が自分の特性（障害）を理解すること、周囲の人は対象者になりきって考えること、目的をしっかりと持ち、共有することの大切さを改めて知ることができた。今後、センターの就労支援を利用することがあると思うので、今回学んだことを生かして、センターおよび、生徒、保護者としっかり連携をとって生徒が働き続けられる支援を行っていきたい。

就労支援について ～高等学校との関わり～

社会福祉法人 慈泉会
秋田県南障害者就業・生活支援センター

説明者: 本間啓之

令和2年2月18日 秋田県立湯沢翔北高等学校雄勝校 資料

障害者就業・生活支援センターの概要②

センターの目的

障害者の職業生活における自立を図るため、雇用、保健、福祉、教育等の関係機関との連携の下、障害者の身近な地域において就業面及び生活面における一体的な支援を行い、障害者の雇用の促進及び安定を図る。
(※平成14年改正障害者雇用促進法により追加)

センターの業務

就業及びそれに伴う日常生活上の支援を必要とする障害者に対し、センター窓口での相談や職場訪問等により指導、相談を実施。

就業支援	・就職に向けた相談・支援 ・就職に関する相談・指導・助言 ・職業準備訓練、職場実習のあっせん ・求職活動の支援 ・職場定着に向けた相談・支援 ・職場訪問等による職場定着活動の支援 ・事業所に対する障害者の雇用管理についての相談・助言 ・関係機関との連絡調整
生活支援	・日常生活、社会生活に関する相談・指導・助言 ・関係機関との連絡調整

4

研修目的

- ・就業・生活支援センターとは
- ・事例
- ・就労支援とは

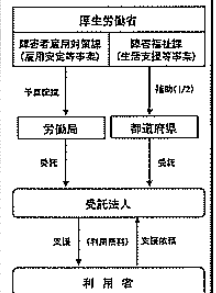


障害者就業・生活支援センターの概要③

センターの設置状況

令和2年4月1日現在	335カ所
都道府県知事が指定した法人 社会福祉法人(293)、NPO法人(24)、医療法人(9)、 公益社団法人(1)、一般社団法人(1) 公益財団法人(4)、一般財団法人(3)	
就業支援	運営法人に対する委託費【雇用助成(雇用保険2事業)】
生活支援	都道府県に対する補助金【一般会計】 【国庫補助1/2 → 残り1/2は都道府県負担】
就業支援	・主任就業支援担当者(1名)及び就業支援担当者(1～6名)を配置 ・主任職場定着支援担当者(1名・53センター)
生活支援	・生活支援担当者(1名～)
その他	・通常センター ・委託期間中の就職者数10人以上 ・職場実習が過去3年で20件以上

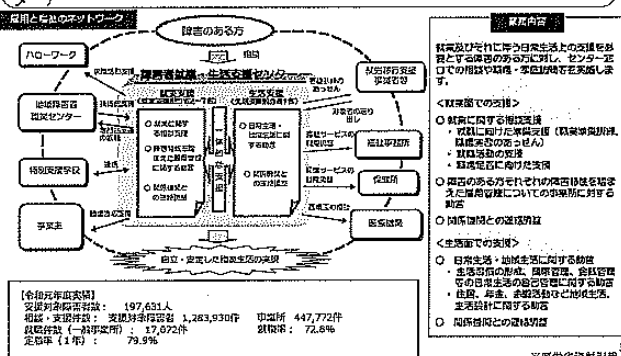
【事業スキーム】



※厚労省資料引用 5

障害者就業・生活支援センターの概要①

障害者の身近な地域において就業面と生活面の一体的な相談・支援を行う「障害者就業・生活支援センター」を設置(令和2年4月現在 335センター)



※厚労省資料引用 3

社会福祉法人 慈泉会 秋田県南障害者就業・生活支援センター (県南なかぼつ)



あなたの「働き(はたらき)」・「生活(あんしん)する」を
応援します

〒014-0043
大仙市大曲戸巻町2-68 (サンワーク大曲内)
TEL 0187-88-8713 Fax 0187-88-8714
E-mail sun.bc@obako.or.jp 就業生活支援ワーカー4名

秋田県南障害者就業・生活支援センターの紹介

障がいのある方とともに 地域で安心して働き・暮らすためのお手伝いをしています

- ◇ 働きたいと思っている方
- ◇ 仕事をしていて困っている方
- ◇ 障がい者の雇用をすすめたい企業
- ◇ 障がい者を雇用している企業
- ◇ 障がい者の就労支援を実施している機関

たとえば・・・事業所から

- ・ どんな仕事ができるだろうか
 - ・ どんな工夫をすれば仕事を覚えることができるか
 - ・ 注意しても良いのか
 - ・ 仕事を休みがちだ
 - ・ 身だしなみが悪い
 - ・ 服装が派手になった
- 休日の過ごし方

働き続けるための支援



働く（就業・就労）支援（準備）

一般就労がしたい

- ・ どんな仕事があっているか
- ・ 職場実習
- ・ マッチング
- ・ 履歴書の書き方 面接の練習
- ・ 面接に同行

施設で訓練を受けたい

- ・ 自分にあった施設を探す
- ・ 施設の見学

たとえば・・・本人や家族から

- ・ 一般就労したい
- ・ 一般就労する前に職場実習をしたい
- ・ 仕事が覚えられるか不安
- ・ 運転免許をとりたい
- ・ 金銭管理を手伝ってほしい
- ・ 一緒に通院してほしい
- ・ いろいろな手続きを手伝ってほしい
- ・ 休みの日の過ごし方がわからない

働く（就業・就労）支援（定着）

働き続けるための支援

- ・ 職場訪問
- ・ 個別面談
- ・ 雇い入れ事業所との面談
- ・ 家族への情報提供

秋田障害者職業センターの情報提供

- ・ ジョブコーチ支援の利用について

働く（就業・就労）支援

退職後の支援

- 雇用保険受給の支援
- 再就職のための準備

補足

就労とは:「仕事に就くこと」「仕事を始めること」といった意味の言葉です。また、「仕事をしていること」という意味もあります。

就業とは:「その日の業務に取り掛かること」「仕事に取り掛かること」といったものです。また、「職業に就くこと」という意味もあります。

生活の支援

各種手続き

- 障害基礎年金の申請
- 行政の手続き

生活の支援

金銭管理

- 給料の使い方
- トラブル回避のための情報提供

携帯電話の正しい利用の仕方

- 勉強会

働き続けるための支援

ほのぼのネット（余暇支援）

休日の過ごし方が・・・

遊びに行きたいが交通手段や場所がわからない等の悩みを持っている方にレクリエーションや勉強会、悩み相談の場を提供、開催している

平成15年から続けている活動です。

年間10回程度開催しています。

（対象者は在職者に限ります）

生活の支援

運転免許の取得

- 自動車学校の情報提供
- スケジュール管理の助言
- 免許取得後の助成制度の案内

健康管理

- 通院同行
- 服薬確認

ほのぼのネット

- 学校行事に合わせた相談コーナーの設置
運動会 学校祭
- スポーツ（ボウリング）（ヨガ体操）
- カラオケ ・ 調理教室
- フラワーアレンジメント ・ 芸術鑑賞
- 映画鑑賞 ・ 救急救命講習
- 携帯電話マナー講習 ・ メイク講座
- 金銭管理講座

考えてみてください
(アイスブレイク)

①就職とは

生徒が卒業後、自分の同僚(後輩)になることです。

事例 (在学→実習→就職→離職)

はじめに

●基本情報

Aさん(障害者手帳あり)平成28年12月取得
障害者手帳2級(精神障害)

診断名: ASD

(自閉症スペクトラムアスペルガー症候群)

普通高校卒業(令和2年3月卒業)

きっかけ

平成31年3月養護教諭からの相談

※高等学校特別支援隊等で状況は把握

考えてみてください
(アイスブレイク)

②障害とは? 障害(障がい)者とは?

目の不自由な方が、道路を歩いていて
段差につまずき転倒しました。

事例 (在学時の関わり①)

●平成31年4月

センターの説明: ご本人、家族(学校含む)しセンターに登録いただく。

在学時の様子や学校での様子

学校での対応手法の確認

個人情報(高校前までの情報や検査結果等)

高校2年生時のインターンシップ(B社)での日誌など情報提供等(会社の評価、自己評価)

※教育専門官との情報提供・共有

考えてみてください
(アイスブレイク)

③障害とは? 障害(障がい)者とは?

目の不自由な方が、介護者と一緒に道路を歩いていて段差につまずき転倒しました。

事例 (在学時の関わり①わかったこと)

・ご本人の特徴

処理速度、作動記憶に優れている

眠らないことはある。なんとなく疲れる

気持ちが優になることがある。泣いたりすることがある。

ルールがはっきりしない曖昧な場面が苦手

自分が主体で自由に振る舞うことが苦手

相手や周りの状況に目が行きやすい

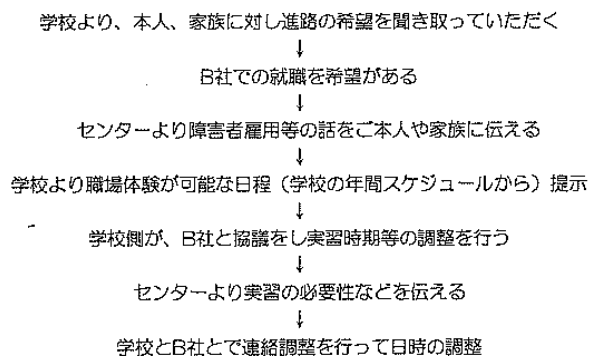
言葉で表現すること、相手に伝えることがスムーズに行きにくい

ため、相手とのすりが合わせ必要

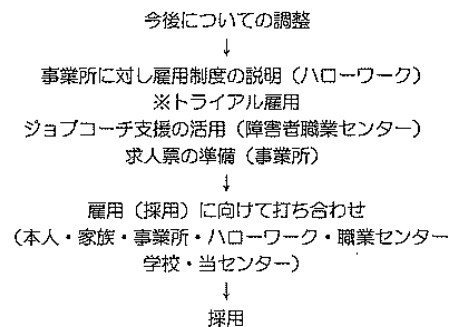
相手の心情を理解することが苦手

自身で解決できずに逃避する

事例（在学時の関わり②）



事例（在学時の関わり④）



事例（確認）

- ・ インターンシップ
高校2年生時にB社での就労体験を実施したことで、本人はB社に興味を持った。
- ・ 本人の考え、学校側の考え
卒業後はB社で働きたい
卒業後はB社へ就職してもらいたい



働きたい(就職)が目的・目標

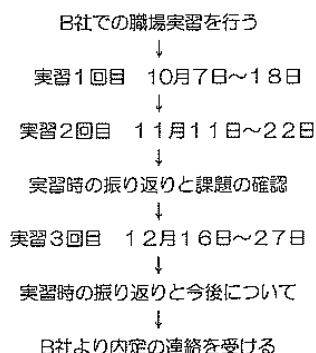
事例（就職までのまとめ）

- ・ 採用までについては、基本的には学校サイドで段取りをしていただきました。
（実習の手配、事業所との連絡調整、本人・家族へのフォローなど）
- センターとしては、適宜学校への助言。関係機関との調整など

課題

- ・ 腹痛、頭痛など本人の体調不良の原因はつかめない。
- ・ 就労意欲があるが・・・
- ・ ストレスへの対応力
- ・ 将来について・・・

事例（在学時の関わり③）



事例（就職→離職）

B社にて採用

業務内容→実習時にやったことを同じ。
部署、担当者も同じ

職場定着に向けた支援の実施

- ・ ジョブコーチ支援の活用（事業所は訪問し就労状況を確認し本人や事業所に対し障害特性を踏まえて働く続けるためのサポート）
- ・ 本人、家族との相談体制（職場定着に向けて、仕事と生活面を踏まえて状況を確認しサポートをする）



離 職

事例（状況）

- ・仕事に行けないことがあった。
- ・仕事上（作業上）は問題ない。（挨拶などは聞こえるか聞こえないかのトーンだが、事業所では問題としていない）
- ・腹痛や頭痛で仕事に行けない。（行くことだできない）
- ・仕事でも頭痛などがあったが、少し休憩することで仕事（作業）の戻ることができる。（事業所からは了解を得ていて問題としないが…）
- ・週末は一度も休むことはなかった（週末だけは別の仕事）
- ・実習との時間が違う
実習 8:00~16:00 就職 8:00~17:00
- ・休日は腹痛などの症状はない
- ・回りと自分を比べている
- ・朝、自分で起きることができない。

就労支援について

●支援者がすべきこと

- ・本人（支援対象者）を知ること
 - ・本人（対象者）になりきること
 - ・本人に合わせること
 - ・目的をしっかり持つこと（共有すること）
- ※目的、手法、効果（結果）を意識する→目的には必ず背景があるので背景も重要です。
『〇〇のために、□□をし、△△します。』
- ・本人の障害を理解し、必要とする
 - ・配慮事項を明確にする
 - ・『無理』させない。でも『頑張る』

就労支援とは

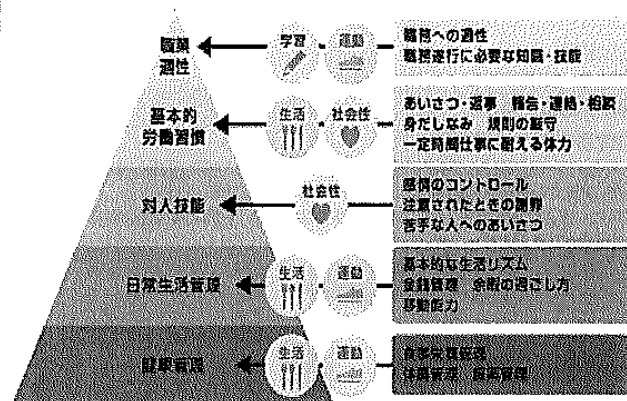
対象者が働き続けることを想定して行うことが重要

- ・仕事ができるだけでよいわけではない
- 作業の意味、業務の意味を理解していなければ働き続けることは難しい
- ・働く目的、就職する目的が必要
- 働くことが目的ではなく、何かを達成するための手段である
- ※就労支援では就職を目的にしていることがあります。それは間違いです。
- ・対象者自身が自分の特性（障害）を理解する必要がある
 - ・将来のビジョンを明確にする
 - ・ストレスへの対応を理解する
 - ・職業準備性について理解する

参考

- ・ 就労パスポート
- ・ 障害者支援とは
- ・ 障害者雇用マニュアル

職業準備性



ループリック評価を取り入れた授業実践

臨時講師 大隅 哲也

ループリック評価とは

生徒の学習到達状況を評価するための評価基準。生徒がどんな評価をされているのか指標（ループリック評価表）を示すことで、生徒が何をどう頑張ればよいか分かり、学習意欲を高めることができる。また評価の公平性を高めることができる。

実際の取り組み

- ・ループリック評価表を作成し、生徒に配付。また、いつでも見ることができるように教室に設置。
- ・授業開始時に本時の評価項目を提示し、授業の最後で「振り返りシート」に自己評価を行う。
- ・自己肯定感が高い生徒と低い生徒で自己評価に差がでないように、同じグループで他者評価を行い、客観的な評価を行う。
- ・毎時間の振り返りシートより、各項目ごとに平均点を集計し、平常点に取り入れる。

取り組んだ感想及び改善点

生徒達の感想では、ほぼ全員が肯定的な意見であった。意欲的に取り組む様子も見られ、成績でもほぼ全員が5段階の4、3であった。改善点としては、評価表が単元ごとに細かく作られていないため、教科の内容をより深く評価できないこと、授業時間内に評価シートを記入する時間が取れていないことなどがある。

生徒たちの感想

初めてルーブリック評価表というのをやってみると良いと思いました。理由としては、授業前に先生が「A」と「B」を頑張ってくださいと言われることによって授業目標と評価目標があってどちらも頑張らないといけないという気持ちになります。また、ペアの人にも評価してもらえるので、ペアの人が自分をどのくらい評価してくれるかという所がとても楽しいです。もし自分が評価が低い時は次の授業の目標にもなるのでとても良いと思います。

その時の授業の目標を記入することによって、その授業の内容が今までよりも分かりやすかった。そして、数回、席替えをして違う人と評価し合うことで互いに、どんな感じかを見ることができて、もっと自分かきなきゃいけない工夫、改善点などが見つかりました。最後に感想を書くことによって授業でやったことを見直すことができたので評価表はよく役に立ちました。そして、これからも活用していきたいと思いました。

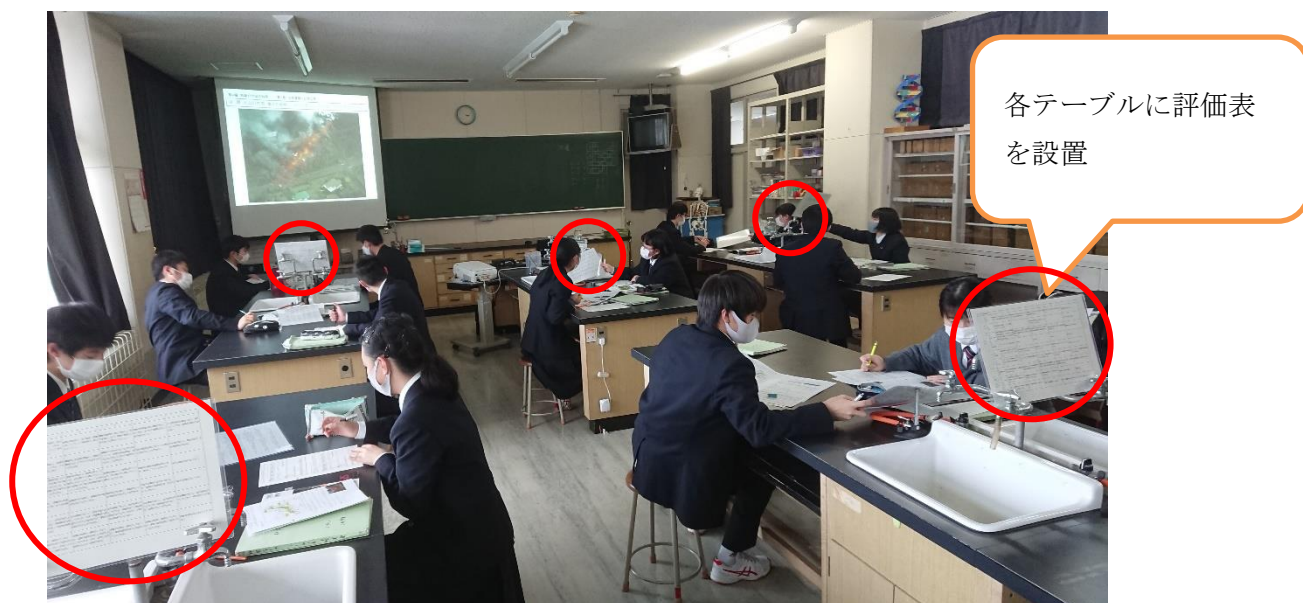
目標を最初に把握する事で、今回は具体的にこういう事を頑張れば、
良いのだと分かり、心構えができています。例えば「ペアと3回
以上話す」というのを目標にして、「よし、今日は絶対に自分から積極
的に話し合うぞ」と以前と比べて前向きになれているのではない
かと、勝手に思っています。しかし、分からないとすぐにペアの
方の意見を聞くたけになってしまっているのでも、自分自身で
も、間違っているかもしれないから、考え、発言する事を大切にしてい
ます。疑問を持つ事の大切さが身に染みて分かるようになっていま
した。関心を持ってみると、授業はもっと楽しいものになり、また、
集中力が高まるので、これから、もっと関心、興味を持って授業に

取り組みたいです
と思います。

毎回授業をするために評価、そして感想に決められ
ているのだと思うのですが、今回からグループワーク
評価表がきて、こんな感じで授業を受けていければいいんだな
というのがめいめいあっていっています。

科人の授業以外でも、グループワーク評価表を思い出して
授業をしています。やっぱり、評価表があるとよいのでは
ないかと授業の受け方が違ってくるんじゃないかと私は
思いました。

授業の風景



教職 5 年目研修講座（高等学校）を受講して

教諭 小林 万寿美

期 日	I 期 令和 2 年 6 月 1 2 日（金） II 期 令和 2 年 9 月 8 日（火）
日 程	I 期 ○教育相談と人間関係作り（講義・演習） ○学校組織の一員として－マネジメントの視点－（講義・演習） ○生徒の実態を踏まえた授業改善①（講義・協議・演習） II 期 ○発達障害のある生徒の理解と支援（講義・演習） ○生徒の実態を踏まえた授業改善②（講義・協議・演習）
研修の目標	学校組織マネジメントの意識を高め、学習指導や学年経営、生徒指導等についての実践的指導力の向上を図る。
対 象	・ 小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教諭として採用されて 5 年目で、今年度高等学校に所属する教諭 ・ 過年度の該当者で未受講者
場 所	総合教育センター
参 加 者	小林 万寿美（家庭）

〔I 期〕

午前の研修は、講義に加え実践的な作業が組み込まれており、作業を通して理論や研修のテーマを実感できる内容となっていた。

「生徒理解と人間関係づくり」では、話の聞き方についてロールプレイを行った。「NO BUT」、「YES AND」、「Why の繰り返し」、「コーチングの 4 W1H」の四つのパターンを行い、生徒の話を受け入れる話し方の注意点や大切さを学ぶことができた。シナリオの中に、もしかしたら自分も言ったことがあるような部分があり、自分では生徒の話を聞いているつもりであっても、生徒にとって本当に話しやすい話し方、聞き方であったのか顧みることができた。

「学校組織の一員として」では 15 分間で学校プレゼンテーションシートを作成した。この作成を通して、学校の目標や強み、生徒や教員の良さを客観的に見つめることができた。更に、色々な工夫を教員一人ひとりがすることで地域のニーズに応える豊かな学校作りの可能性を感じることができた。

午後は教科研修で、家庭科の部谷指導主事、六郷高校の檜岡明日美先生、農業科の秋田北鷹高校教頭の佐々木孝之先生、増田高校の守屋拓先生、私の 5 名で行った。I 期では 3 種のテーマの中から、私は「生徒の思考を深める授業展開についての工夫と実践上の課題」を選択した。自校の生徒の実態を踏まえて、授業で工夫していることや課題となっている

ことについてレポートにまとめたものを順番に発表し、協議を行った。他校の実情や先生方の様々な実践例を知ることができ貴重な時間となった。さらに部谷指導主事より助言や新しい視点の提示をいただき、今後の課題の解決に向けての方向性を掴むことができた。

〔Ⅱ期〕

午前中は発達障害のある生徒の理解と支援について講義していただいた。本校では毎年特別支援についての研修を行っているため、重複する内容が多く、生徒の理解や対応で大切なことを再確認することができた。特に、生徒への対応やユニバーサルデザインの視点からの授業改善や環境整備は、現在できている所やできていない所を確認することができ、できていない所は早速改善していきたいと思った。また、日々意識しているつもりであっても、見落とししたり、忘れてしまったりすることがあるので、全教員で定期的に再確認し、継続して取り組んでいくことが必要だと感じた。

午後の教科での協議では、Ⅰ期の課題についての改善策を取り入れた授業の報告を行った。それぞれに工夫し、改善に結びつけることができていた。さらに授業の進め方や地域との連携の仕方など様々な授業改善の視点を学ぶことができた。今回学んだことを生かして、今後も指導力向上のため研鑽を重ねていきたい。

〔まとめ〕

常日頃から本校の先生方よりご指導いただいているが、今回の教科研修のように同じ教科の先生の授業を見せてもらったり、見てもらったりする機会はとても少ない。そのため、このような研修は非常に貴重だと感じている。また研修時の意見交換や報告、協議において、先生方とのお話を通して、授業や指導方法、地域連携などについて視野を広げることができた。今回学んだことを授業に取り入れ、生徒のより良い学びに繋げられるようさらに努力していきたい。

最後に、研修に専念できる環境を用意していただいた多くの先生方のご配慮に、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第2学年G組 家庭科（家庭総合）学習指導案

学 校 名 湯沢翔北高等学校雄勝校

指 導 者 小林 万寿美

授業月日 9月2日（水）2校時

1. 題材名 子どもと共に育つ 子どもを取り巻く環境と福祉 （使用教科書：東京書籍）

2. 本時の計画

（1）ねらい 子育てに悩む母親のエピソードから現代の子育てが孤立しやすい状況に気づき、望ましい保育環境について考え、自分の言葉で表現することができる。

（2）展開

	学習活動	指導上の留意点	評 価
導入 7分	1. 子育てに悩む母親のエピソードを聞き、感じたことを発表する。（全体） 2. 本時の目標を確認する。	・子育ての悩みをイラストを使って説明し、イメージをつかみやすくする。 ・些細なことのように感じる母親の悩みも、当事者にとっては深刻であることに気づかせる。 ・キーワードを板書し、子育てが孤立している状況を認識させるとともに、学習の必然性を高める。	
	目標：子育てが孤立しない望ましい保育環境を整えるために、どうしたらよいか考えよう。		
展開 38分	発問：なぜ保育者（多くは母親）が一人で子育てに悩む状況になってしまうのだろうか。 3. 子育てが孤立する背景を予想する。（個人）	・予想を立てやすいように、イラストを使用する等ワークシートを工夫する。 ・机間巡視をしながら、難儀している生徒には子育てに関わる周囲の状況の変化について言葉で表現できるよう助言する。	
	発問：子育てが孤立しない望ましい保育環境を整えるために、どのような行動をすればよいだろうか。		
	4. 子育てが孤立しないための望ましい保育環境を整えるためには、具体的にどうすればよいか個人で考え、その後グループで話し合い、まとめる。（個人→グループ） 5. 各グループでまとめた考えを全体で共有する。	・子育ての孤立によって、保育者が困る場面をイメージさせ具体的な行動について考えるように助言する。 ・グループ内でお互いの考えを練り合うように声かけする。 ・話し合いを深めやすくするよう、視点を示す。 ・話し合いをスムーズに進めるため、役割分担を明確にする。 ・各グループの考えを共有できるよう、班でまとめたポイントをB4の紙に記入し、全体の場で発表するよう伝える。 ・望ましい保育環境は、保育者自身が社会とつながりを持ち、様々な支援を得ながら作っていくことを確認する。	・子育てを孤立させないための望ましい保育環境を考えている。 [B]ワークシート・発表
まとめ 5分	6. 本時の学習のまとめを行う。	・共有した内容に基づき、子育てを支援する社会の一員として今の自分にできることを考え、自分の言葉でまとめるように伝える。 ・自分たちも子育てを支える社会の一員であり、子育てをしている人に関わっていくことの重要性について助言する。	・社会の一員として保育に関わろうとしている。 [A]観察・ワークシート

3. 評価基準

A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
子どもの発達と保育について関心を持ち、社会の一員として子育てに関わろうとしている。(本時)	子どもの発達と保育について、現代の家庭や地域、社会生活における課題を見出し、具体的に考えをまとめたり、発表したりできる。(本時)	子どもと適切に関わることができたり、子どもの健やかな発達を支援したりするために必要な技術を身につけている。	子どもを取り巻く環境整備と社会全体で子育て支援する必要性を理解している。

〔授業導入時の母親のエピソード〕

●ある人に新米ママさんが相談した内容の一部抜粋。

2ヶ月の男の子の新米ママです。今毎日がしんどくて辛いです。
 わが子はかわいいのに、まだ数ヶ月ですが育児に疲れてしまいました。
 旦那も朝早く夜遅いので、家には私と赤ちゃんの2人きりです。
 赤ちゃんが泣きじゃくるのを見ても、かわいそうと思えない事があります。
 私の方が泣きたいんよ！とイライラしながら泣いています。
 赤ちゃんは何も悪くないのも分かっていて、寝顔を見ては後悔して、また泣いての繰り返しです。

●くわばたりえさんが子育てについて書いたものの一部抜粋

育児に疲れた
 もう しんどい
 投げ出したいめっちゃわかる。
 洗濯 掃除 買い物 ご飯作る 食べさせる 食器洗う
 お風呂入れる 寝かし付け 夜泣き 寝不足 オムツ替え 旦那のご飯…(略)
 私はダメな母親やと思う
 休み欲しい
 寝たいのに寝られない
 自分のしたい事が何もできない
 孤独
 なんで私だけしんどいん？
 何もかも嫌になる
 子供はお母さんが一番
 お母さんが居ないと何もできない
 そんな事言われんでもわかってる
 わかってるからしんどいねん
 このしんどい気持ちを わかってくれる人がおらんから しんどいねん。

5 これからの保育環境

目標：子育てが孤立しない望ましい保育環境を整えるためには、どうしたらよいか考えよう。

1. 子育てをしている人の悩みを聞いて、子育てについてどう思いましたか？（一言で）

2. 現代の子育てが孤立しているのはなぜだろう。子育てが孤立する背景を予想しよう。

父親



父親は…

友達は…

親は…

周囲の人は…

3. 子育てが孤立しない環境を整えるためには、どうすればよいか考えてみよう。

（自分の考え）

母親の行動	父親の行動
周囲の人としての行動	社会支援であつたらいいもの

(グループやみんなの考え)

母親の行動	父親の行動
周囲の人としての行動	社会支援にあつたらいいもの

◎まとめよう 望ましい保育環境とは…

4. 高校生の自分が、子育てを支援する社会の一員としてできることを考えよう。



湯沢翔北高校相互授業研修〈地歴・公民〉

臨時講師 土田 裕未

期 日	令和2年 11月 5日 (木)
日 程	研究授業 8:45 ~ 9:35
教 科	地理歴史 (世界史 B)
場 所	湯沢翔北高校
対 象	2年 A組 普通科
授 業 者	土田裕未 臨時講師

1 研究授業

(1) 本時のねらい

歴史的背景からフランク王国が長続きした理由を考察する

(2) 授業について

授業プリントをもとに授業を展開した。導入では前回までの内容の確認を行った。その後、ローマに次いで西洋の主役となるのがフランク王国だと説明し、課題を「フランク王国が長続きした理由を考えよう」と設定した。フランク王国の発展と、ローマ＝カトリック教会の成長について授業し、最後に課題の解答をまとめと振り返りを書かせた。

2 感想

世界史 B を授業するにあたり、学習範囲を入念に研究した。日本人にとって捉えにくい教会と国家の関係を理解してもらうために当時の情景がイメージしやすいように説明や言葉選びを工夫した。反省点は、生徒の思考を促す場面をほとんど取れなかった事が挙げられる。今回の範囲は重要語句が多く、多くの時間を説明に割いてしまった。最後は自分のまとめを数人に発表してもらい、全体で共有し確認する予定だったが、時間配分も甘く十分に組み立てることができなかったため、すっきり落ちない授業で生徒を混乱させてしまったと思う。後日受け取った振り返りシートをチェックすると自分の言葉で授業の要点をまとめられていた。感想と振り返りからは、課題について「理解できた」という言葉もあり安心しているが、授業を参観してくださった先生方の提言等を参考にして今後も授業の質を高める努力をしたい。普段とは異なる生徒

を対象にして授業をするということで非常に緊張したが、集中して授業を聞いてくれる真面目な生徒達のおかげでスムーズに展開でき、無事に終えることができた。

課題 フランク王国が長生きした理由を考えよう。

【フランク王国の発展】

- 481 年、(A) の (B) 建国。
 - (C) を開く
 - (D) に改宗 : ニケーア公会議で(正統・異端)とされた宗派。

→

その後、王の権力は衰え (E) (マヨル＝ドムス) が実権を掌握

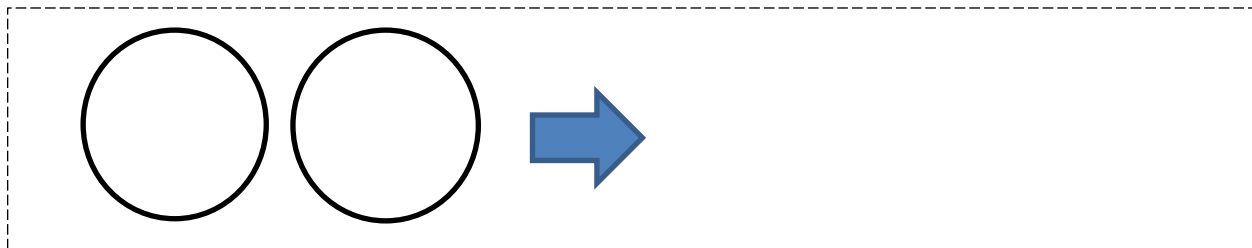
- 宮 宰 (F) : 732 年、(G) でイスラーム教徒を撃退。

- F の子 (H) : 751 年

*メロヴィング朝から王位を奪い、(I) を開く。

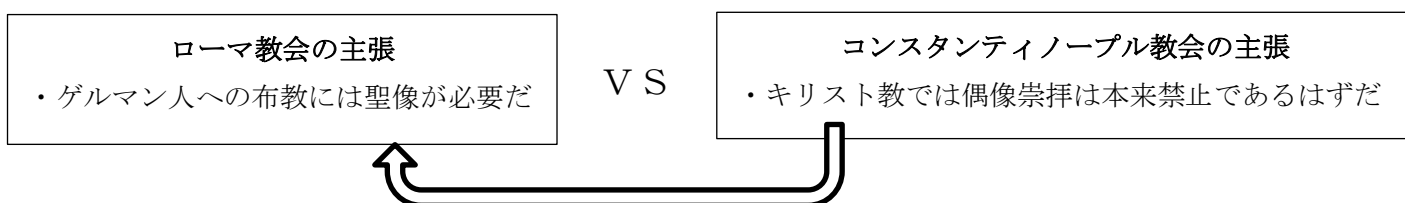
【ローマ＝カトリック教会の成長】

- 地中海に広がったキリスト教の5つの拠点 (J) という。



- ローマ教会の司教は (K) として権威を高める。
- 教皇グレゴリウス1世以来、ゲルマン民族への熱心な布教活動。

○聖像をめぐる対立



726 年 : ビザンツ皇帝 (L)、(M)

を発布。

このとき、★の事案が起こる。

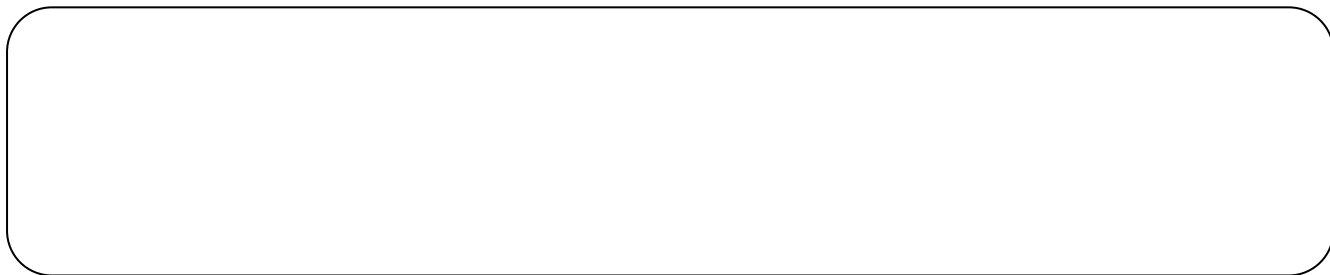
- ローマ教皇、ピピンがフランク王位を継承することを認める。
- そのお礼に、ピピンは (N) を教皇に寄進。(ピピンの寄進)
→これが (O) の始まり。

〔まとめ・振り返りプリント〕

フランク王国が長続きした理由を考えよう（箇条書きでもOK）



授業のふりかえり、感想等



自己評価 A・B・C 氏名_____

湯沢翔北高校相互授業研修〈理科〉

臨時講師 大隅 哲也

期 日	令和2年 11月 24日 (火)
日 程	研究授業 13:10 ~ 14:00
教 科	理科 (生物)
場 所	湯沢翔北高校 3年 E組 教室
対 象	3年 E組 工業科
授 業 者	大隅 哲也 臨時講師
1 研究授業 (1) 本時のねらい 土地の環境や生育する植物の特徴を考え、遷移の流れをまとめる。 (2) 授業について KP法を用いて導入を行い、グループで遷移の流れについて環境状況を踏まえて考えさせた。教科書から必要な情報をまとめさせ、各グループに遷移の流れの各種図を配り、グループでまとめたあと、代表グループに黒板の図を並べ替えさせ説明させた。授業の最後にはループリックを用いた「振り返りシート」を書かせた。 2 感想 翔北本校にて授業を行った。生徒の反応もよく、意図した通りの解答を答えてくれたことで時間内に終わることができた。ただ、振り返りシートを記入する時間を取ることができなかったため、導入をもう少し早く進めるようにしたい。また、普段行っているループリック評価をもとに、振り返りシートをアレンジして行ったが、ほとんどの生徒がループリックを意識し授業に臨んでいたように感じた。約40人かつ他校の生徒に授業を行うことが久しぶりであったため、多少緊張もあったが、生徒たちのおかげで無事に終わることができた。	

本時の目標

※キーワード

植物の生育条件： 水 →
日光 →
土壌の栄養 →

遷移

ある場所の植生が
時間とともにしだいに
変化していく現象。

先駆種

遷移の初期に侵入
してくる植物。
＊

陽樹

日当たりの良い
環境でよく生育する
性質。

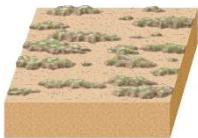
陰樹

日陰の環境でも生育
することができ、ある
程度生育すると明るい
ほど成長する樹木。

1、各土地の環境状態を教科書を使って調べよう。

裸地

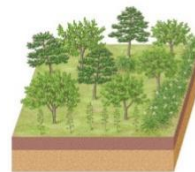
土壌の状態は？



どんな植物が生育？

低木林

どんな樹木が生育？



種子はどう運ばれる？

混交林

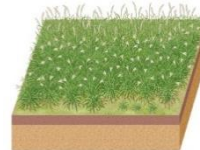
生育するのは陽樹、陰樹？



陽樹、陰樹どちらが増える？

草原

土壌の状態は？



地面に届く光の量は？

陰樹林

地表に届く光の量は？



芽生えは陽樹、陰樹どっち？

陽樹林

地表に届く光の量は？



芽生えは陽樹、陰樹どっち？

2、各土地の環境を踏まえ、遷移の流れに沿って並び替えよう。

遷移の流れの説明文を考えよう！

各土地の環境状態や生育する植物の特徴を取り入れながら説明できると◎！

まとめ

・ 遷移は
生物基礎 遷移の流れ

振り返りシート							
年	組	番	氏名	月 日 ()			
本時の 内容							
授業の目標 や内容につ いて簡単に 記入。							
評価内容	評価項目	5	4	3	2	1	自己 評価
							他者 評価
	興味・関心 授業の取り組み方	教師や友人の説明を しっかり聞き、出さ れた課題のすべてを 答えることができ、か つ、板書やプリン トをすべて記入でき た。	教師や友人の説明を しっかり聞き、出さ れた課題の一部を答 えることができ、か つ、板書やプリン トをすべて記入でき た。	教師や友人の説明を しっかり聞き、出さ れた課題の一部を答 えることができました。	授業の内容はあまり 理解できなかった が、教師や友人の説 明をしっかり聞け た。	よそ見や別の作業を したり、寝てしまっ た。	
	思考・判断・表現 遷移の流れ	すべての土地の環境 的特徴や、その土地 にあった植物の特徴 の説明を交えなが ら、森林が完成する までの流れを説明で きる。	すべての土地の環境 で優占する植物の特 徴の説明を交えなが ら、森林が完成する までの流れを説明で きる。	一部の土地のみ、環 境で優占する植物の 特徴の説明ができ、 かつ、森林が完成す るまでの流れを説明 できる。	各土地の環境や優占 する植物の説明はで きないが、森林が完 成するまでの流れは 説明できる。	森林が完成するまで の流れを説明できな い。	
	技能 話し合いの技能	5回以上発言し、か つ、目線を合わせな がら話を聞き、相づ ち等のリアクション をとった。	3回以上発言し、か つ、目線を合わせな がら話を聞き、相づ ち等のリアクション をとった。	3回以上発言し、か つ、目線を合わせな がら話を聞いた。	1回以上発言し、か つ、目線を合わせな がら話を聞いた。	まったく発言せず、 話も聞かなかった。	
授業の感想: 授業の中で考えや知識が変化したことや新しく知ったこと、授業の感想を記入しよう。							